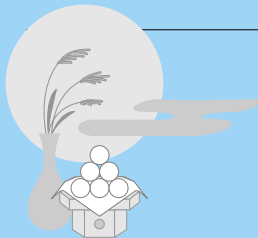


# INTER KYOTO

インターキョウト

2004.9.30 No.23

社団法人京都府情報産業協会  
発行：広報委員会



## 会長直言

(社) 京都府情報産業協会 会長 植田 弘毅

先日、情報システム学会関連の講演で、ユーザー・アンケート結果を引用し、コンピュータシステムをメインフレームからCS(クライアント・サーバー・システム)に切り替えると「コストは1.7倍となり、そのうち運用コストが70%を占める」ことが紹介され、この結果から「システムを効果的に使いこなしていると言えるのかどうか」という提起がありました。

このコスト1.7倍という数字は、民間設備投資の29.4%がIT投資という最近の状況からすれば、ある程度容認できる数字ですが、経営コスト全体が増えていなければITの構成比が高くなったわけで、これはIT化の促進と見ることができます。

また、メインフレームからCSへの転換は、いわゆるバックエンドからフロントエンドへの転換であって、システムの運用負荷は広く現場に分散され、運用コストの構成費が高くなるのは

当然です。

また、CS化がもたらす経営効果という大事な点が見落とされています。通販などeコマースの世界ではCSが有効な分野でしょう。

しかし、企業において、オープンシステムを手掛けるようになってシステム開発の生産性が漸次高まっているという実感はありません。SEに曰く、「開発自動化等の知恵を出せ。知恵が出なければ汗をかけ」。汗をかくにも、東南アジア諸国の労働生産コストに負けない生産性向上策に努めなければ生き残れない。かつての財界の荒法師・行革の鬼、故土光敏夫氏曰く、「知恵も汗も出なければ会社を去れ」。



## 情報 コラム

6

## インターネットの10年過去未来

財団法人京都産業21

1993年、これが情報技術IT(今ではICTと言うらしい)の大きな分水嶺であったことは間違いありません。この年を境にインターネットの大躍進が始まり、今や我が国では加入者が1600万を超え世界最安料金を実現するに至ったのです。

京都産業21の前身の一つである京都産業情報センターが「京都インターネット利用研究会」を立ち上げたのが、この年のあくる年。今年でちょうど設立10周年を迎えました。設立当時はパソコンもWindowsなども全くなくて、DOSベースのものが中心でした。使えたのはUNIXベースのワークステーションですが、それも今から考えると、とても今のウインドウと言えるような代物ではなく、パソコンのDOS窓みたいなものでした。その窓でMosaicがモノクロながらグラフィックで見えたときは、さすがに感動しましたが、まさか技術者以外の誰でも使うようになるとは夢にも考えませんでした。このような時期にインターネットに目を付け、さらに「利用」しようと考えられた研究会設立メンバーの慧眼には今更ながら感心するばかりです。

このように当財団は前身を含め10年にわたり支援活動を行ってきたのですが、やはり時代は変遷します。10年前に議論したような問題点や支援策は全て解決され、これからの10年の支援策が必要とされます。アメリカではITによる労働生産性の向上で10年以上にわたってインフレ傾向は抑えられているということです。また最近のITバブル崩壊後も大幅な労働生産性の向上により、崩壊の後遺症もごく僅かで済んで景気の回復が著しいようです。日本政府もADSLの成功に乗り、今年度から2010年87兆円に向かってU-Japan(コピキタスネット・ジャパン)構想を進めようとしています。当財団は「利用」を一歩進めて、経営革新に結びつくような、ICTによる京都中小企業の労働生産性の大幅向上を目指していきます。

京都インターネット利用研究会：<http://www.joho-kyoto.or.jp/riyoken/>

## 「第1回 経営研究会」開催報告

主催：経営委員会

開催日時：2004年7月15日（木） 16：30～18：30

場所：京都商工会議所 セミナールーム

テーマ：「裁量労働制の導入とその準備」  
- 超過勤務問題との関連 -

講師：中小企業診断士・社会保険労務士 山崎忠夫氏

参加者：18社から27名

経営委員会の今年度の新規事業として講師を招いて、業界共通の旬の経営課題について勉強する「経営研究会」を年4回開催することになりました。今回は第1回目として、会員18社から27名が参加されました。講師には京都産業21や京都商工会議所などを通じて、京都、滋賀、大阪で相談員として活躍中の山崎忠夫氏から、労働基準監督署の指導



山崎忠夫先生  
質問に回答される



山崎忠夫先生の講演を熱心に聞く参加者各位

と企業からの立場の両面の対応について説明をいただきました。また、「専門業務型裁量労働制」（一方に企画型もあるが、当業界では専門型になる）の変更点の解説もありました。その後の質疑応答では、30分余りにわたって各社から多岐にわたる多くの質問があり、有意義な研究会となりました。

今後も「経営研究会」への多数の参加を期待しています。

## 「情報交歓広場」開催報告

主催：経営委員会

開催日時：2004年8月19日（木） 17：30～20：00

場所：京都全日空ホテル

テーマ：「中高年SEについて」の取り組み

出席者：13社から20名



韓国情勢を説明される  
中谷博志副委員長

会員17社から回収された「中高年SEについて」のアンケート集計をもとに、各社からの報告と悩みなどが発表され、引き続き意見交換が行われ、取り組



木村道也委員長の発表

みのヒントを探りました。出席会員社の約半数は、40歳未満のSEであり、数年から10年後の近い将来の課題として認識されておられます。しかし、残りの半数は現在40歳以上のSEを抱え、その処遇について切実な問題となっている状況が明らかになりました。

### 取り組み

新技術の研修に参加させる  
給与体系の見直し、新ポストの設置  
適材部署に配属変更  
ライフプラン支援制度の導入

など

今後も「情報交歓広場」への多数の参加を期待しています。

### 問題点

新技術の吸収ができない  
技術第一主義で顧客とのコミュニケーションが苦手  
業績収支のアンバランスが拡大する  
部下の指導や育成ができない

など

## 「SE研究会キックオフセミナー&交流懇談会」開催報告

主催：技術委員会

開催日時：2004年9月14日（火） 15：30～19：00

場所：平安会館

第1部 セミナー 「儲けるSEとは...」

講師：TC近畿会会長 ITCコーディネータ  
田内 幸夫氏

参加者：20社から43名

第2部 交流懇談会 参加者：19社から42名

技術委員会の今年度の事業として、10月から4つのテーマ（品質、開発効率、情報セキュリティ、新技術）で「SE研究会」を開催することとなりました。これに先立ってキックオフセミナーとして、ITC近畿会会長の田内幸夫氏から「儲けるSEとは...」の講演をいただきました。“顧客満足が得られなければ儲からぬ”に始まり、“真のSEに



田内幸夫先生の講演を聞くSE研究会のメンバー

交流懇談会での乾杯の様子



要求される資質とは...”、といった大変濃い内容の講演を聞き、“SEとは”を再度考えさせられる有意義なセミナーとなりました。引続き「SE研究会」へ参加の方々とSE研究会担当世話役（技術委員会委員）との交流懇談会を開催し、実のある「SE研究会」とするための積極的な意見交換が行われました。

今後も「SE研究会」への多数の参加を期待しています。

## 会員だより

会員企業、社員の皆さんのユニークな取り組みやトピックスを紹介するコーナー。  
我こそはと思われる方は、自薦・他薦を問いませんので、ぜひ事務局までお申し出ください。

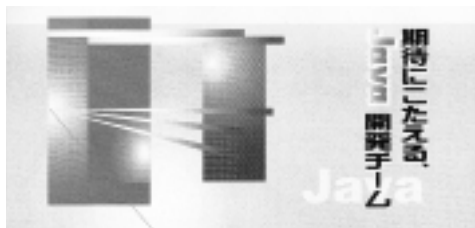
## 元気印の企業紹介

(株)アルバス

## “Java”に注目し、人に優しいシステムを開発

平成2年、情報システムコンサルティング企業としてスタートした『アルバス』。現在では、各種ソフトウェアの開発、コンピュータネットワークの構築・管理運用を幅広く手がけています。同社では、システム開発において必要不可欠ともいえる「Java」の有用性に早くから注目。Java経験者を中心とした研究会（Java会）を社内で開催するなど、開発スキルの向上に努めてきました。こうした地道な取り組みの結果、サン・マイクロシステムズ㈱のJava技術者認定資格をはじめ、「ORACLE MASTER GOLD」や「UMLシルバ」、 「XMLマスター・ベーシック」など、ソフトウェア開発に欠かせない資格を持った人材を多数輩出しています。今後は、これまでのように人と機械を結ぶだけでなく、人間同士のコミュニケーションを重視したシステム開発を目指していくとか。高度な技術力の追求、そして人間性豊かなSE育成を掲げて邁進するアルバスの経営

姿勢は共感を  
集めそうです。



京都市右京区西院坤町51番地2

TEL 075-312-4498

URL <http://www.topsys.co.jp/>

京都ソフトウェアリサーチ㈱

## フラッシュファイルシステムで携帯市場に斬込み

1990年、大学の研究室主催のコンピュータサイエンスを学ぶ場集った仲間と設立された『京都ソフトウェアリサーチ』。携帯端末向けポータルサイト・コンテンツサーバの構築、Javaアプリケーションの開発など、最先端技術を駆使した質の高いソリューションを提供しています。



今から4年前、これまで培ってきた独自技術が結実し、フラッシュファイルシステム「Fugue（フーガ）」が誕生。最近、携帯電話を使って動画や画像、音楽などのデータをやりとりする人が増えていますが、このFugueを使えば大容量データの保存・活用が容易、しかも操作性に優れているのが特徴です。携帯電話などに使用されているフラッシュメモリを操る優れもののシステムで、多くのデジタル製品に搭載されるなど好評を得ています。

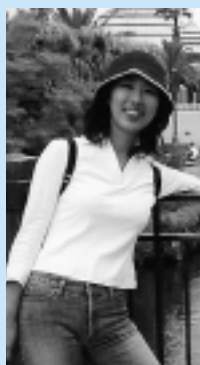
今後は、こうしたコア技術を生かして、プロセッサやメモリ、ソフトウェアのハンドリング技術を確立していきたいとか。「絶えず近未来を見据えた次世代技術への挑戦」という経営理念が示すとおり、プロフェッショナルチームの未来への照準は確かなようです。

京都市下京区堀川通綾小路下ル綾堀川町293番地1 堀川通四条ビル 2階

TEL 075-342-0794

URL <http://www.kyoto-sr.co.jp/>

## 我が社のイチオシさん!



木村 章子さん（けいしんシステムリサーチ㈱ 京都システム開発部 係長）

## 何もしない贅沢、味わってみませんか

私の楽しみは、大学時代の友人たちと、年に1度、どこか静かなリゾート地に出かけること。これまでバリ島や宮古島などいろんな場所に行きましたが、何もせず、ただプカプカと海に浮かんでいるだけというのは最高の贅沢ですね。まるで時間が止まったような不思議な気分です。仕事では時間に追われることが多いので、こうした経験は本当に良いリフレッシュになります。「また明日から頑張ろう」という

気がわいてくるんですよ。

そのほか、ウインターシーズンには信州のほうへスキーに出かけることも多いですね。最初はなかなかうまく滑れなかったのですが、先輩や友人のアドバイスを受けるうちに、少しずつ上達していく自分を実感することができました。今では、急な斜面だって平気なんですよ（笑）。私はいろんな人と出会って、交流を広げていくのが大好き。自分にはないものを吸収することができますから。これからも、仕事や遊びを通して、たくさんの人から刺激を受けたいと思います。

## 協会だより

正会員 54社  
特別会員 1名  
賛助会員 6社

事業推進委員の積極的な会員増強運動により  
成果を得ることができました。  
会員の皆様も入会紹介、勧誘にご協力下さい。

### お知らせ

#### 経済産業省情報化月間協賛 京都情報化フォーラム・会員懇親会 開催

昨年7月に策定された「e-Japan戦略」の中で、家庭内の電力線の高速通信への活用は、家庭内における高度なIT活用・普及や、使いやすいシステムの実現に極めて効果が大いといわれています。そこで、本フォーラムでは高速電力線通信の制度面、技術面の取り組み状況と海外の最新動向などについて紹介します。

日時：平成16年10月15日（金）

午後3時～7時30分（懇親会 午後5時30分～）

場所：平安会館（京都市上京区烏丸通上長者町上ル）

プログラム：家庭内電力線を利用した高速電力線通信（PLC）の可能性を探る

講師：関西電力㈱経営改革・IT本部チーフマネージャー  
谷岡 匠氏

#### 今年もやります！ 第7回 ボウリング大会

日時：平成16年11月12日（金）

午後7時スタート（予定）

場所：MKボウル上賀茂（京都市北区上賀茂西河原町）

奮ってご参加ください！

#### 平成16年度 新春セミナー 開催

日時：平成17年1月13日（木） 午後～

場所：平安会館（京都市上京区烏丸通上長者町上ル）

詳細については後日ご連絡いたします。

### お知らせ

㈱ケーケーシー情報システムは平成16年6月18日、「環境マネジメントシステム（ISO14001）」の認証を取得。

## Coffee break

～ミニ・ボエム～



地下鉄の入り口で はじめてきみと会った  
すれちがった ぼくはひそかに鼻をきかせた  
なにか甘酸っぱいものの流れるのを期待して  
でも雨に濡れたアスファルトだけ匂う

By Hideki Yushita

**編集後記** 盆休みを利用して高野山に行ってきました。比叡山とはまた違った風情にただ驚くばかりでした。インターキョウト23号をお届けします。広報誌という性格上、会員の皆様に向けての広報と協会外に向けての広報の両面を念頭に編集しておりますが、誌面の出来映えは如何でしょうか。ご意見、ご感想等、お聞かせいただければ幸いです。（N）

### インターキョウト配布先リスト

京 都 府	京都府 商工部 産業活力支援総括室 京都府 企画環境部 IT政策監 京都府 中小企業総合センター 京都府 中小企業団体中央会 京都市 産業観光局 商工部 産業振興課 京都市 総合企画局 情報化推進室 京都商工会議所 産業振興部 京都商工会議所 中小企業経営相談センター 京都情報基盤協議会 京都市中小企業支援センター 京都産業21 京都インターネット利用研究会 京都産業21 新産業支援部 新事業課 京都高度技術研究所 京都工業会 京都経済同友会 京都ソフトウェアアプリケーション 京都の各新聞社・放送局
東 京 都	情報サービス産業協会 全国地域情報産業団体連合会 日本ソフトウェア産業協会
大 阪 府	近畿経済産業局 産業企画部 地域振興課 近畿経済産業局 産業企画部 情報政策課 関西電子情報産業協同組合
北 海 道	北海道IT推進協会
青 森 県	青森県情報サービス産業協会
宮 城 県	宮城県情報サービス産業協会
千 葉 県	千葉県情報サービス産業協会
神 奈 川 県	神奈川県情報サービス産業協会
埼 玉 県	埼玉県情報サービス産業協会
群 馬 県	群馬県情報サービス産業協会
山 梨 県	山梨県情報サービス産業協会
長 野 県	長野県情報サービス振興協会
愛 知 県	愛知県情報サービス産業協会
和 歌 山 県	和歌山県情報サービス産業協会
広 島 県	広島県情報産業協会
徳 島 県	徳島県情報産業協会
鳥 取 県	鳥取県情報産業協会
島 根 県	島根県情報産業協会
山 口 県	山口県情報産業協会
福 岡 県	福岡県情報サービス産業協会
長 崎 県	長崎県情報サービス産業協会
沖 縄 県	沖縄県情報産業協会